

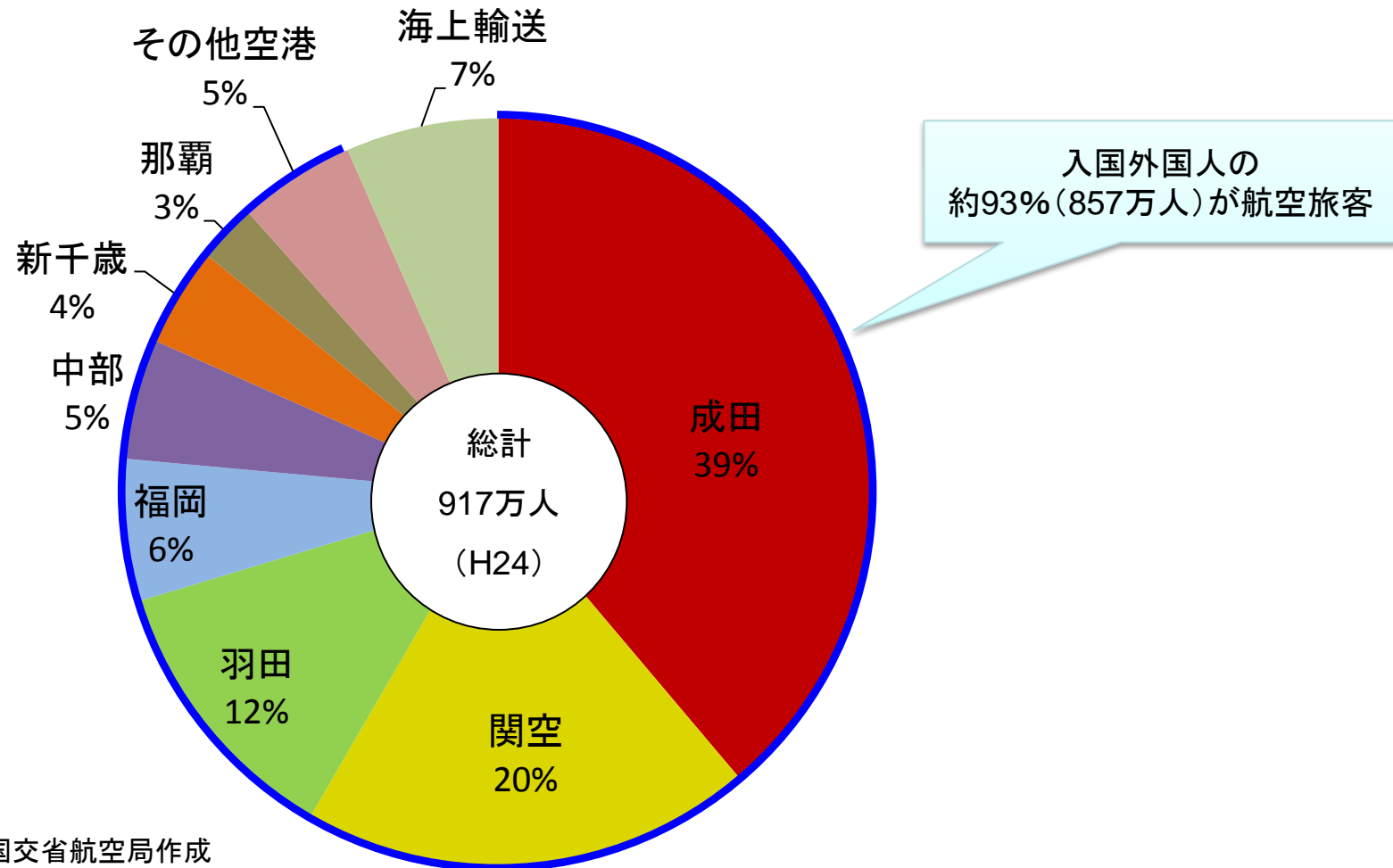
観光立国の実現に向けた航空分野の課題と取り組み

国土交通省 航空局

平成25年10月30日

入国外国人の旅客輸送の状況

- 入国外国人のうち、航空旅客の占める割合は、約93%となっている。
- 訪日外国人旅行者のほとんどが航空利用であることから、観光立国を推進する上では、航空の受入環境が訪日外国人旅行のボトルネックとならないよう、また、訪日外国人が使いやすい航空サービスが提供されるよう、航空政策上配慮することが必要。

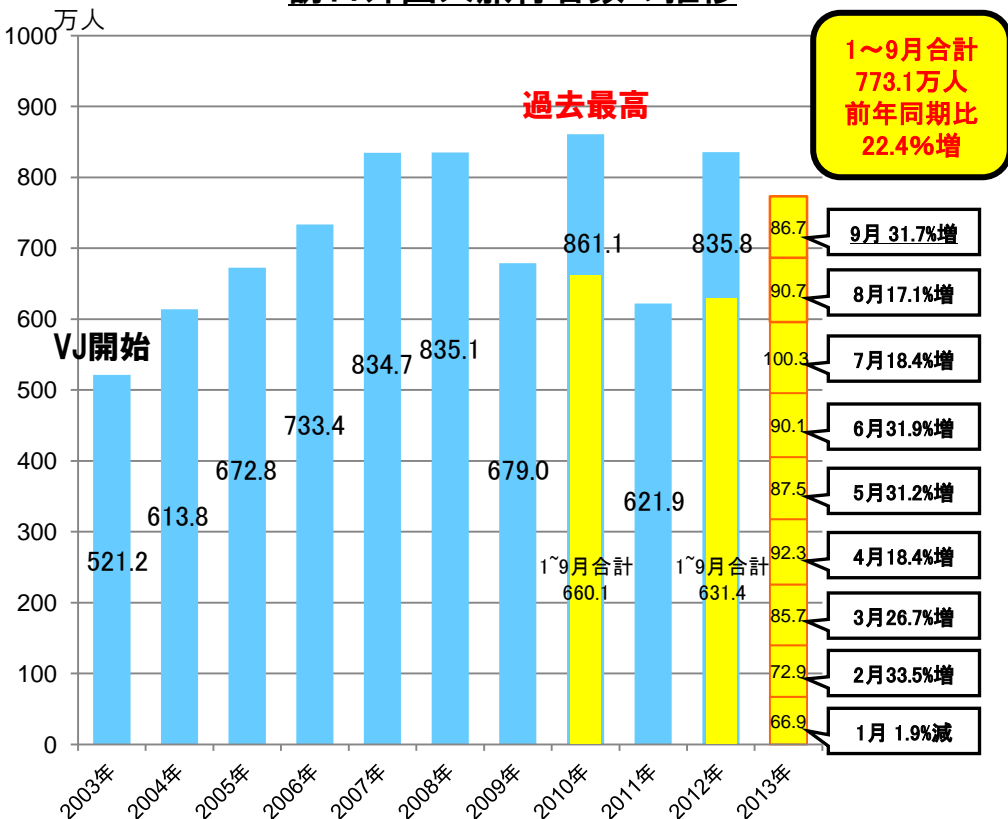


出所) 法務省資料に基づき国交省航空局作成

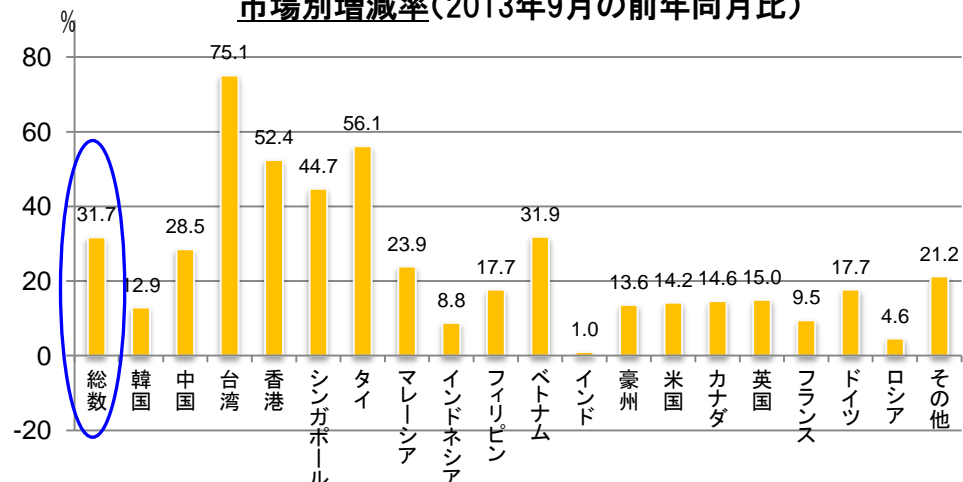
訪日外国人旅行者数の最近の動向

- 2013年9月の訪日外国人旅行者数は、前年同月比31.7%増の86.7万人となり、9月としての過去最高となった。1～9月の合計は、前年同期比22.4%増の773.1万人となった。
- 台湾、香港、東南アジア市場での訪日旅行人気の継続や、欧米豪市場を含めた訪日プロモーション効果や、円高の是正による訪日旅行の割安感の浸透、本年7月からの東南アジア向けビザ要件緩和の効果等により着実な伸びを示した。
- ビザが免除となったタイ、マレーシアのほか、中国、台湾、香港、シンガポール、ベトナム、インド、フランス、ドイツにおいて、9月としての過去最高を記録し、中国については、これまでの前年比マイナスから反転した。また、タイ、台湾、香港、ベトナムについては、1月から9月までの累計で、すでに前年を上回っている。

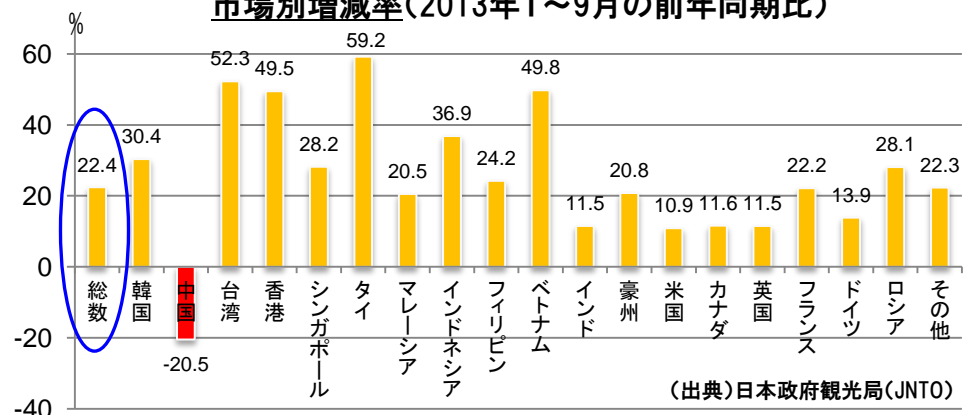
訪日外国人旅行者数の推移



市場別増減率(2013年9月の前年同月比)



市場別増減率(2013年1～9月の前年同期比)



注) 2013年1～7月の値は暫定値、2013年8～9月の値は推計値、%は対前年(2012年)同月比

○ 観光立国の実現に向けて、航空分野における各課題に対して、以下のような考えのもと、解決・改善を図っていく。

訪日外国人旅行の促進における課題

●国際拠点空港の機能拡充・強化

- ビジネス・観光の両面で旺盛な需要を有する首都圏を中心に、訪日外国人旅行者の来訪に必要な空港の機能拡充・強化等を図り、ヒト・モノ・カネの流れの障壁をできるだけ除去することが必要。

●国際・国内航空ネットワークの充実

- エアラインの運航コスト削減を通じて外国人旅行者の来訪に必要な国際航空ネットワークの拡充を図るため、空港使用に係る料金の低廉化が必要。また、旅行需要の喚起を図るため、航空運賃の低廉化が必要。

●空港の利便性・快適性の向上

- おもてなしの心で訪日外国人旅行者を迎えるために、我が国に入国するための玄関となる空港の利便性・快適性の向上が必要。

解決のための取り組み

首都圏空港(羽田・成田)の機能強化 ※1

地域の拠点的な空港の
抜本的な空港能力の向上 ※2

LCC・ビジネスジェットの受入環境の整備 ※2

オープンスカイ施策と戦略的に連動させた
効果的な訪日プロモーションの展開

柔軟な料金体系の構築等に資する
国管理空港等の経営改革 ※3

外国人向け航空券割引商品の提供の促進

出入国手続きの迅速化・円滑化

国際線から国内線への乗り継ぎ時間の短縮

空港アクセスの改善 ※3

空港の魅力向上

※1 第9回(9/26)において議論

※2 今回のLCC、ビジネスジェットに関する議題の中で議論

※3 次回以降の議題において議論

○ 「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」が平成25年6月11日に策定されたところ。アクション・プログラムに基づき、航空関連施策を着実に実施していく。

具体的な施策・アクション

ビザ要件緩和等による訪日旅行の推進

- 航空ネットワークの更なる充実
 - **首都圏空港の容量拡大**(羽田:平成25年度末の年間発着容量44.7万回、成田:平成26年度中の年間発着容量30万回)を背景とした**首都圏空港を含めたオープンスカイの戦略的な推進**や、成田空港におけるLCC専用ターミナルの整備(平成26年度中)、中部空港におけるLCCの拠点化にも対応できる新ターミナルの整備(平成26年後半)、関西空港における新たなLCC専用ターミナルの整備の検討等による**LCCの参入促進**等により、航空ネットワークの充実を図る。また、北海道から沖縄まで日本各地が世界各国と航空網でつながることを目指す。加えて、**ビジネスジェットの利用環境を整備**していく。

外国人旅行者の受入改善

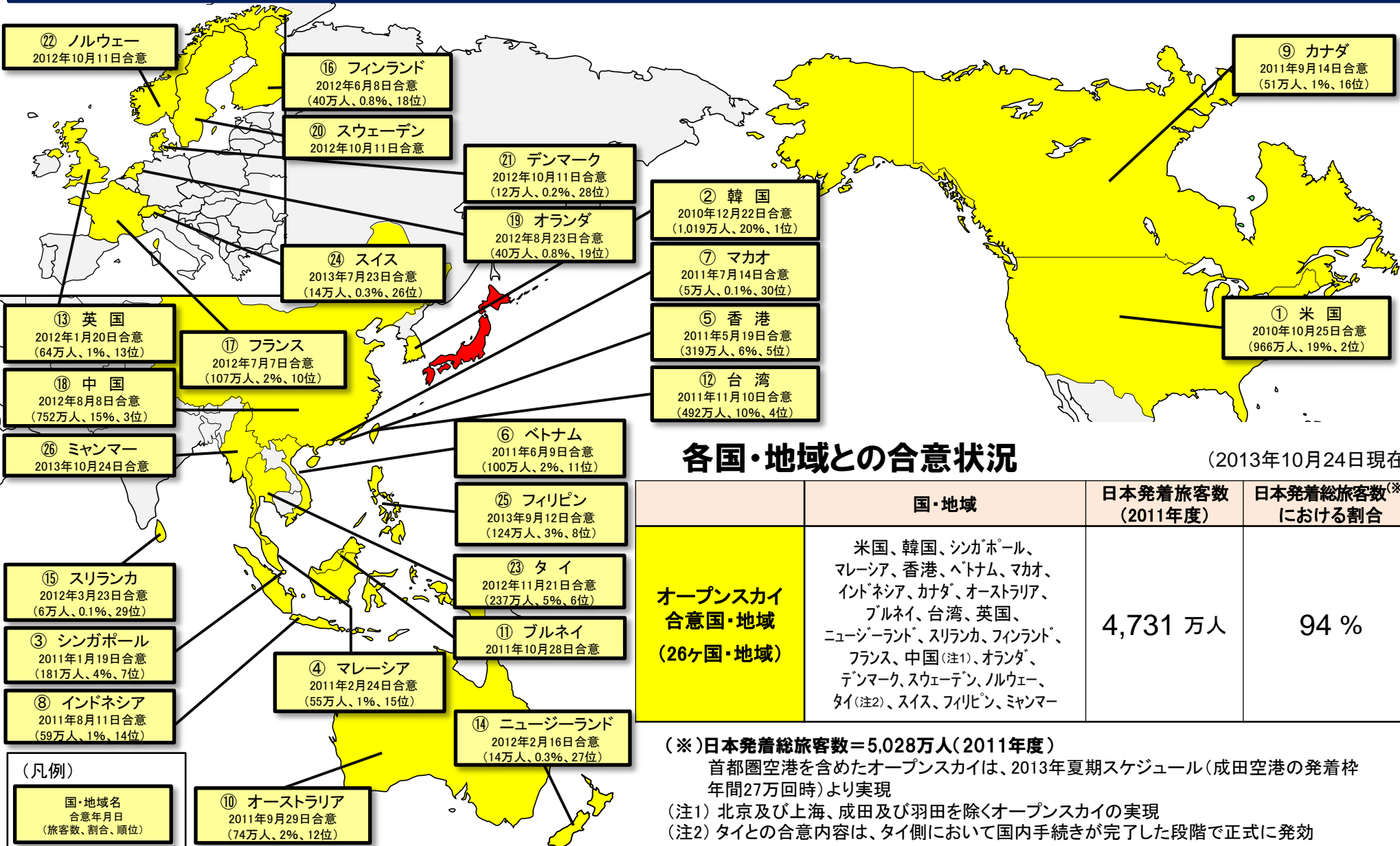
- 出入国手続きの迅速化・円滑化
 - 国際会議等の参加者やVIPなどの空港での出入国手続きの迅速化を図るため、所要の出入国手続きの要員等が確保されることを前提に、その適切な運用方法について検討した上で、これらの者を対象とした**ファーストレーン**の設置の実現を目指す。
 - 空港での出入国手続きの迅速化を図るため、**自動化ゲートの利用を促進**するとともに、審査場の混雑状況に応じて、日本人用審査ブースと外国人用審査ブースを機動的に運用する。
- 交通機関による快適・円滑な移動のための環境整備
 - 訪日外国人旅行者が**航空**、鉄道、レンタカー、バス・タクシー等を利用しやすいよう、**移動手段の充実・利便性の向上・魅力向上、情報の発信、割引商品の造成・拡大の促進**等に向け、関係事業者との意見交換会の開催などに取り組む。
 - **羽田空港における深夜早朝時間帯の定期便に対応した交通アクセスの改善**について、「東京国際空港の望ましいアクセスのあり方に関する検討会」において、交通事業者等と連携し検討を進める。

日本ブランドの作り上げと発信

- クールジャパンと一体となった日本ブランドの発信
 - 空港における食の海外展開等の取組を促進するため、**主要な国際空港で日本産酒類や農産物、その加工品等の魅力を発信**する。
- 新たな視点に立った訪日プロモーションの実施
 - 首都圏空港を含めたオープンスカイの実施を契機として、**航空会社による新規路線展開や空港会社等による新規就航・増便のための取組**とビジット・ジャパン事業を戦略的に連携させた訪日プロモーションを本格化する。

オープンスカイ交渉の進捗状況について

○ 戦略的にオープンスカイ交渉を推進し、26カ国・地域と合意し、日本発着総旅客数における割合は94%となっている



各国・地域との合意状況

(2013年10月24日現在)

	国・地域	日本発着旅客数 (2011年度)	日本発着総旅客数 ^(※) における割合
オープンスカイ 合意国・地域 (26ヶ国・地域)	米国、韓国、シンガポール、マレーシア、香港、ベトナム、マカオ、インドネシア、カナダ、オーストラリア、ブルネイ、台湾、英国、ニュージーランド、スリランカ、フィンランド、フランス、中国 ^(注1) 、オランダ、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、タイ ^(注2) 、スイス、フィリピン、ミャンマー	4,731 万人	94 %

(※)日本発着総旅客数=5,028万人(2011年度)
首都圏空港を含めたオープンスカイは、2013年夏期スケジュール(成田空港の発着枠年間27万回時)より実現
(注1) 北京及び上海、成田及び羽田を除くオープンスカイの実現
(注2) タイとの合意内容は、タイ側において国内手続きが完了した段階で正式に発効

オープンスカイに関する今後の取り組みについて

- 観光・対日ビジネス投資の促進に向け、二国間の流動を増やすことが重要
- このため、将来を見据えた航空枠組みを設定する観点からオープンスカイ合意を増やすことが必要
- 世界で最も自由化が進んでいる米国と比べても、将来を見据えた協定を拡大する余地は大きいと考えられる

オープンスカイの世界的な傾向

- **世界145カ国**(全世界の73%) がオープンスカイに合意。(ICAO資料/2012年時点)
- 二国間に加え、多国間での合意等、**形式が多様化**している。

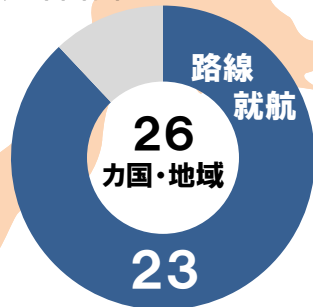
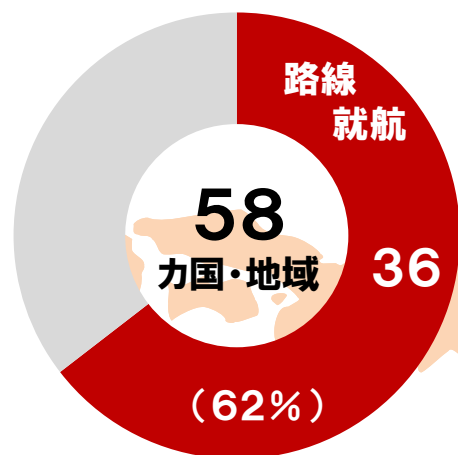
【例】日本と米国の比較

航空協定



オープンスカイ

日本発着需要の多い
協定締結国の**45%**と合意



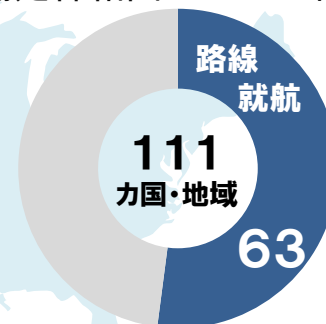
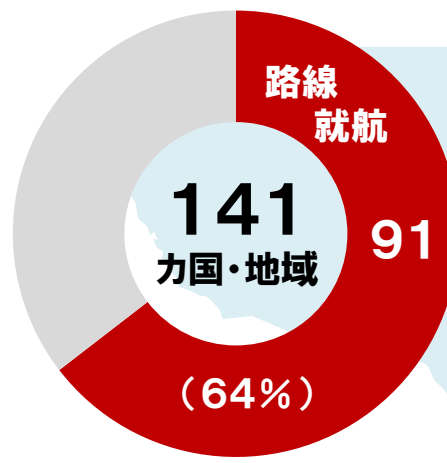
日本発着総旅客に
占める割合: **94%**

航空協定



オープンスカイ

多国間等、様々な形式で
協定締結国の**79%**と合意



米国発着総旅客に
占める割合: **70%**

空港におけるファーストレーン設置に向けた検討について

- 国際会議の開催地やビジネス拠点の選択に当たり、玄関口たる空港の果たす役割は大きく、空港における出入国手続きを迅速に行い、都心部へ移動しやすくすることは、大都市圏の立地競争力強化の観点からも大きな課題。
- 諸外国空港の主要空港においては、ファーストレーンを設置し、VIP/CIPに対し、一般旅客とは異なるサービスを提供している。
- このような状況を踏まえ、我が国の国際拠点空港において、VIP/CIP等を対象としたファーストレーンの設定に向けて、関係者による検討会を設置し、年内を目途に論点を整理し、具体的な対応策のとりまとめを行う。

諸外国主要空港におけるファーストレーンの設定状況

北米	JFK、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴオヘア、バンクーバー 等
欧州	ヒースロー、シャルルドゴール、フランクフルト 等
アジア	北京、上海、桃園/松山/高雄、香港、スワンナプーム、クアラルンプール 等

空港におけるファーストレーン設置に向けた検討会

検討会メンバー	航空会社、空港会社等、CIQ関係機関、国交省	
検討項目	①ファーストレーンの設定の適否（合理性、効率性） ②ファーストレーン施設のあり方 ・対象者の範囲、使用料金のあり方、動線の設定 等	
スケジュール	平成25年10月9日	第1回 空港会社より現状及び課題について説明
	11月上旬	第2回 海外事例紹介、航空会社より現状及び課題について説明
	11月中	第3回 論点整理
	12月中	第4回 とりまとめ

【参考】成田空港における保安検査の優先レーン

ファーストクラス、ビジネスクラス旅客や航空会社の上級会員等を対象とする保安検査の優先レーンを設置。（保安検査通過後は、一般旅客と同一動線。）



出入国審査手続きにおける自動化ゲートの推進への協力

- 訪日外国人旅行者の受入には、出入国手続きの迅速化が必要。
- 観光需要の高まる8月を強化月間に位置づけ、航空会社の機内誌へ自動化ゲートの広告掲載などのPRを実施。空港においても、自動化ゲートのポスターの掲示やデジタルサイネージの表示を行うとともに、出張登録カウンターを設置。
- これらの取り組みにより、平成25年8月以降、月間の自動化ゲート利用希望登録者数は大幅に増加。(現在登録可能なのは、有効なパスポートを持つ日本人と、再入国許可・みなし再入国許可制度の対象となっている外国人)

航空会社における取り組み

JAL機内誌「Skyward」
8月号へ掲載



タッチ操作でスピーディーな
出入国手続きができる「自動化ゲート」

「自動化ゲート」は、パスポートと指紋により本人確認を行い、自動的に出入国手続を行うことができるシステム。使い方はディスプレイの表示に従って、簡単な操作をするだけです。また、出発前にパスポートと申請書だけの手軽な利用登録をしておけば、スムーズに出入国手続が行えます。登録はフライト当日でも可能。成田空港、羽田空港、中部空港および関西空港で利用することができます。

◎法務省入国管理局
☎03-3580-4111
www.moj.go.jp

空港会社等における取り組み

- ・ 空港内でのポスター掲示



- ・ 空港各社HPにおいて、法務省HP「自動化ゲートの運用について」のリンクを掲載
- ・ 国際線出発フロアに自動化ゲート事前登録場所案内看板設置、空港案内センターにおいてリーフレットを配布
- ・ 出張登録カウンターの設置

ANA機内誌「翼の王国」8月号へ掲載

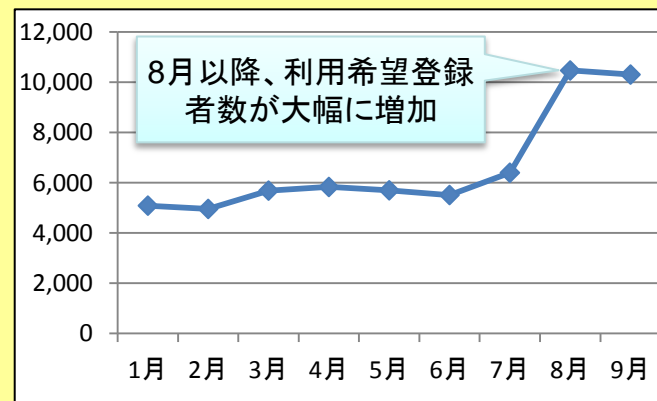
自動化ゲートを利用してみませんか？

自動化ゲートは、旅券と指紋により本人確認を行い、自動的に出入国手続を行うことができるシステムです。ご出発前の簡単登録で、スムーズに出入国手続ができます。成田空港、羽田空港、中部空港及び関西空港でご利用いただけます。(詳しくは「自動化ゲート」でインターネット検索)

◎法務省入国管理局
☎03-3580-4111



(参考)自動化ゲート利用希望登録者数推移(H25)



出典) 法務省提供資料より国交省航空局作成

入国手続き待ち時間の改善に向けた取り組み

- 関西空港における入国手続きについて、入国者が集中する時間帯等に審査ブースで混雑が発生しており、審査待ち時間が観光立国推進基本計画で目標として定められた20分を超える状況となっている。
- 入国手続きを迅速化・円滑化し、審査待ち時間を短縮するため、国交省より法務省に申し入れる等により、関西空港においては、入管当局の審査体制運用の柔軟化や、新関空会社の案内看板設置等の取組を実施している。

関西空港における取組事例

【入国管理局における取組】

- 入国審査場の混雑度合いに応じて、第2ターミナルから第1ターミナルへ審査官を応援派遣。
- 審査ブースの空き状況に応じて、入管当局のコンシェルジュが外国人を日本人ブースへ誘導。

【新関空会社における取組】

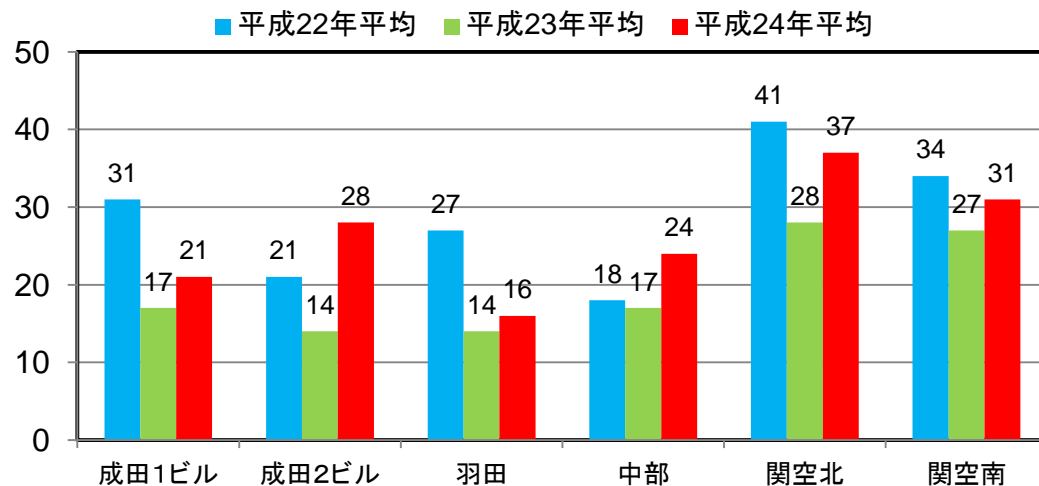
- 入国審査場入口に空港案内スタッフを派遣し混雑時間帯における誘導案内の支援を実施。
- AGT(ウイングシャトル) 駅にEDカード(入国カード)記載に関する周知看板を制作し設置。



これらの取組により、平成25年の審査待ち時間は前年に比べ概ね10分※程度、短縮されている。

※平成25年1月から8月までの平均値

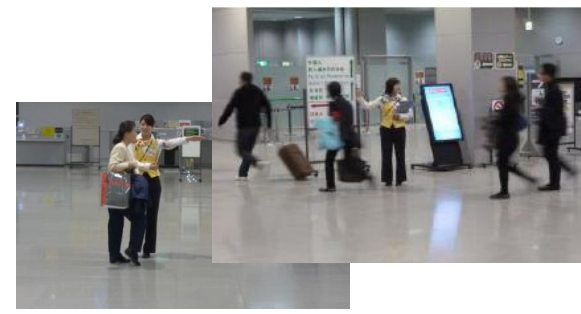
空港における最長審査待ち時間



出典) 国土交通省観光立国推進本部(第2回)資料3



EDカード記載に関する周知看板の設置



空港案内スタッフによる誘導案内の支援

地方空港の利便性向上に向けた検討について

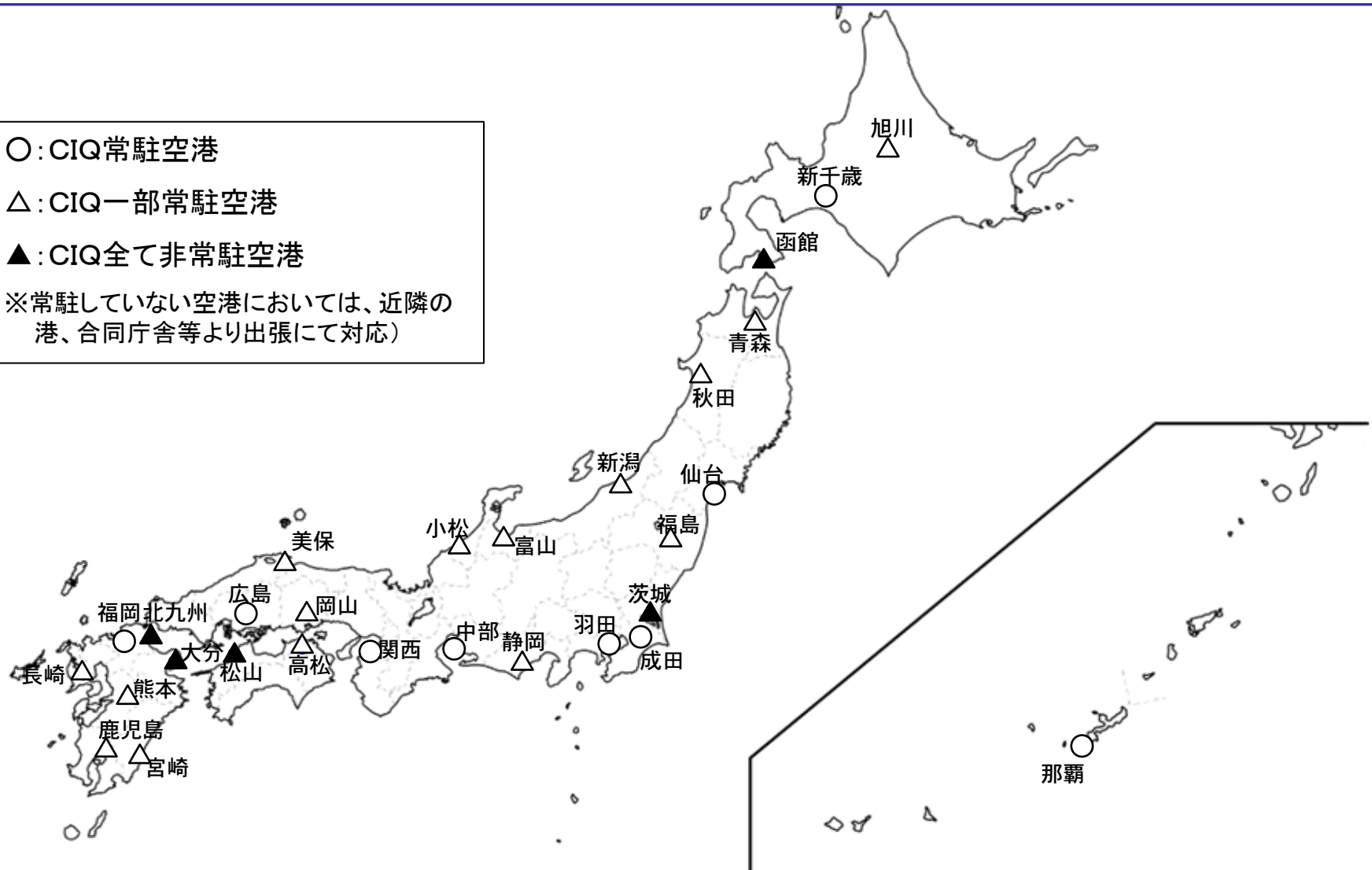
- 訪日外国人旅行者の更なる増加に向けて、地方空港においても、積極的なポートセールスなどを行い、新規路線の誘致などに取り組んでいく必要がある。
- これと併せて、空港ターミナルビルの機能拡充や、空港関係者による旅客支援、CIQ体制の充実等、地方空港の利便性向上に向けた検討が必要。

○ : CIQ常駐空港

△ : CIQ一部常駐空港

▲ : CIQ全て非常駐空港

※常駐していない空港においては、近隣の港、合同庁舎等より出張にて対応)



訪日外国人旅行者に対する航空運賃割引制度の例

○ 各航空会社において、訪日外国人旅行者向けの割引制度が導入されている。

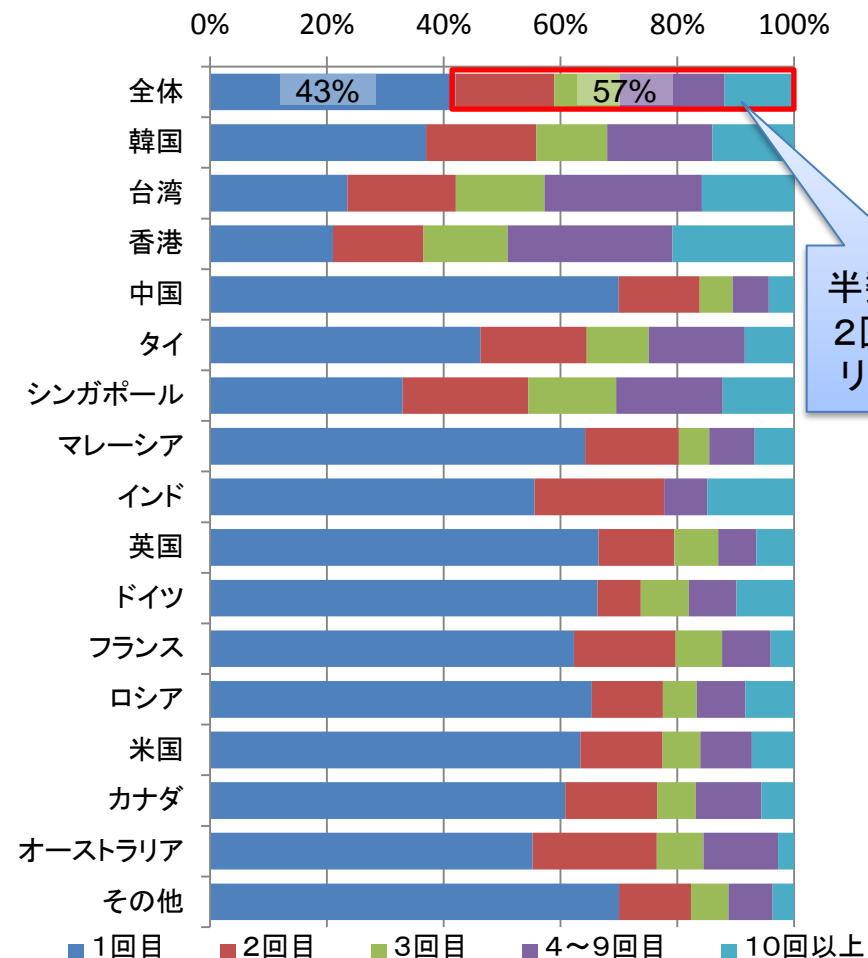
航空会社	名称	制度概要	適用条件
ANA	Visit Japan Fare	国内線を2-5区間利用する場合、どの区間も13000円/区間(消費税別)で提供。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国外に居住していること ・出発前に国外で購入(予約センター又は旅行会社で購入。国外居住の証明が必要) ・最初の区間は予約が必要(変更不可) ・夏季(7・8月)、年末年始、春季(3月)に設定除外期間あり
JAL	Welcome to Japan Fare		
ANA	Star Alliance Japan Air Pass	・アライアンス加盟各社便で日本へ渡航する旅客に対し、国内線を1-5区間(他社運航のコードシェア便を含む。)利用する場合、どの区間も10000円/区間(消費税別)で提供。	※oneworld Yokoso /Visit Tohoku Fare 東北路線に限り5000円/区間(消費税別) 設定期間:2013年10月1日~2014年3月31日搭乗分
JAL	oneworld Yokoso /Visit Japan Fare	・アライアンス加盟各社便で日本へ渡航する旅客に対し、国内線を1-5区間利用する場合、どの区間も10000円/区間(消費税別)で提供。	
ANA	Experience JAPAN FARE	・国内線を利用する場合、どの区間も10000円/区間(消費税別)で提供。日本へ渡航する際の航空会社の制限なし(LCCでも利用可能)。購入可能区間の制限なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国外に居住していること ・ANA SKY WEB(海外サイト)のみで購入可能 ・搭乗3日前までに予約が必要 ・全区間で予約変更、払い戻し不可。
ソラシドエア	VISIT JAPAN	「短期滞在」で日本へ渡航する旅客に対し、ソラシドエア全区間を10000円/区間で提供。	<ul style="list-style-type: none"> ・国内のソラシドエア空港カウンター又は旅行会社(一部取扱できない店舗有)で購入。短期滞在のスタンプ/シールを受けたパスポートの提示が必要。 ・予約不可。当日搭乗便に空席がある場合に利用可。

拠点空港における際内最小乗継時間の短縮

- 訪日外国人旅行者の約57%が訪日回数2回目以上のリピーターとなっている。
- インバウンドの更なる増加を図るためには、今後リピーター需要の維持・拡大を図っていくことも重要であり、訪日リピーターに飽きられることのないよう、日本国内の訪問地の多様化が必要。
- 拠点空港における際内最小乗継時間(MCT※)の短縮など、訪日外国人旅行者が日本各地へ移動しやすい環境の整備が必要。

※MCT: Minimum Connecting time

■ 訪日外国人旅行者の訪日回数(観光・レジャー目的のみ)



半数以上が
2回以上の
リピーター

■ 拠点空港における国際線から国内線への最小乗継時間

空港	際内最短乗継時間
成田	1時間40分～1時間50分 (1時間15分～1時間20分)
羽田	2時間 (1時間10分～1時間20分)
成田ー羽田	3時間30分
中部	1時間20分 (1時間～1時間15分)
関空	1時間15分 (1時間～1時間15分)
関空ー伊丹	3時間20分
ヒースロー	1時間30分
ミュンヘン	30分～45分
フランクフルト	45分
JFK	1時間45分

出典) Flight Guide Worldwide Oct 2013(OAG)、航空会社HP
注) ()内は同一航空会社の場合の最小乗り継ぎ時間

■ 乗継時間の短縮に向けた取り組み

空港内における移動時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・国際線ー国内線のターミナル間の動線の改善 (際内トンネルの整備、乗り継ぎ施設の整備等)。
CIQ手続きの円滑化・迅速化	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化ゲートの利用促進 ・ファーストレーンの設置に向けた検討

海外主要空港における空港の魅力向上に向けた取り組み

- 海外の国際空港においては、トランジット客向けの無料観光ツアーの提供、免税店、SPA、フィットネスクラブ等の空港内商業施設の24時間営業等により、空港の魅力向上を図っている。

ドバイ国際空港(UAE)

- ・ 出発・到着ともに24時間営業の免税店あり。



チャンギ国際空港(シンガポール)

- ・ 24時間営業の免税店(香水・化粧品、酒・たばこ)に加え、24時間営業のフィットネスクラブ、ミニシアター(無料)あり。
- ・ トランジット旅客を対象とした無料観光ツアーのサービスを提供。



仁川国際空港(韓国)

- ・ 免税店に加え、空港内に24時間営業のスパ(サウナ・マッサージ・仮眠室)あり。
- ・ また、空港近辺には、24時間営業のゴルフ場、カジノを設置。
- ・ トランジット旅客を対象とした無料観光ツアーのサービスを提供



- 我が国において国際線間を乗り継ぐ旅客に、“日本の魅力”に触れていただき、充実した乗り継ぎ時間を過ごしてもらうことにより、再訪需要を喚起する取り組みを成田空港及び関西空港にて試行的に実施。
- プログラム参加者にはアンケートに協力いただき、その結果を今後の取り組みに活かしていくこととしている。

成田空港

【外国人乗継旅客向けに「おもてなし」プログラムを期間限定で実施】

- 「トランジット専用ラウンジ」の開設
- ・ラウンジ内での休憩スペース・茶菓子の提供、荷物一時預かり等
- コンシェルジュが旅客の希望に合わせ優待メニューを案内
- ・空港内レストラン等で利用可能なクーポン券の配布
- ・外国語対応タクシーによる周遊観光ツアーの優待 等
- コンサートや日本文化体験等のイベントの実施

【対象者】

入国ビザを有する旅客又は入国ビザ免除国・地域からの旅客

【実施期間】 2013年10月11日(金)～2013年12月31日(火)



乗継導線上で看板とスタッフによる案内



トランジット専用ラウンジで「おもてなし」

関西空港

【外国人乗継旅客向けに期間限定の特典を提供】

- ・旅客ターミナル等で利用できるお食事お買い物1000円券の提供
- ・KIXエアポートラウンジ等の60分間無料券の提供
- ・空港内わくわく見学ツアーの無料券(土日祝日のみ)の提供
- ・スカイシャトルバス(りんくうタウンとの往復)1日乗車無料券の提供
- ・りんくうプレミアムアウトレット割引クーポン等の提供

【対象者】

入国ビザを有する旅客又は入国ビザ免除国・地域からの旅客

【実施期間】

2013年10月11日(金)～2013年12月31日(火)



乗継保安検査場前にてスタッフが特典内容を案内



乗継保安検査場前にて配布するチラシのイメージ

- 各空港の乗り継ぎ保安検査場前において、スタッフの案内及び告知看板等により、乗り継ぎ旅客に対しお知らせ。
- 各空港会社のホームページの他、JNTOのグローバルサイトにおいても掲載。今後、関係機関を通じたPRを行っていく予定。

ニッポンを飲もう！「日本の酒キャンペーン」について

- 我が国の国際空港を利用する訪日外国人に対し、海外でも高く評価されている日本のお酒の試飲や外国人向けの酒蔵ツアーリズムに関する情報発信等により、お酒の魅力をPRするキャンペーンを平成25年10月から半年間にわたって実施。
- 国・空港会社・酒造業界が一丸となって行う初の試みであり、本取り組みを通じてさらなる訪日外国人の獲得を目指す。
- 航空局においては、空港会社と関係省庁等との連絡調整や広報の面から支援を実施している。

➤ 政府における日本産酒類の海外展開に向けた取り組み

・「観光立国実現に向けたアクション・プログラム(H25.6.11 観光立国推進閣僚会議)」

→ 日本ブランドの発信と作り上げとして『空港における食の海外展開等の取組を促進するため、主要な国際空港で日本産酒類や農産物、その加工品等の魅力を発信する。』



キャンペーンブース
と来客の状況
(成田空港)



オープニングセレモニー
(中部空港)



キャンペーンブースでの
試飲の様子(羽田空港)

舞妓さんによる
振る舞い酒
(関西空港)



- 各空港、関係機関のホームページやデジタルサイネージ、フェイスブックなどのツールを活用した広報を実施。その他、JNTOや航空会社等にも協力を呼びかけ、訪日外国人向けPRを実施。(日本語以外にも英語、中国(繁・簡)、韓国の言語でPRを実施)
- また、訪日外国人向けの観光情報を掲載したフリーペーパーへの掲載や、メディアを招いたイベントなどを実施する予定。